

政務調査研究視察 報告書

平成19年 月 日提出

視 察 日	平成19年 2 月 16 日 (金)
視 察 先	長岡京市
視 察 内 容	長岡京駅周辺整備事業について
視 察 者	山崎憲伸・鈴木雅登・鈴木豊 計 3 名
長 岡 京 市	<p style="text-align: center;">＜長岡京駅周辺整備事業について＞</p> <p>(1) 長岡京市の概要</p> <p>人口 77422 人 世帯数 31015 世帯 面積 19.18k m² 歳出 270 億円 財政指数 0.86</p> <p>長岡京市は、大阪のベットタウンとして発展する一方、 東部には、松下電器産業(株)、三菱電機(株)、村田製作所等 のハイテク企業が多く存在する。</p> <p>(2) 視察の概要</p> <p>長岡京駅整備事業は、総事業費97億円、期間は平成10年度から18年度にかけて長岡京 駅西口地区市街地再開発組合を事業主体として実施された。</p> <p>現在、商業施設（バンビオ2番館）、公共施設（バンビオ1番館）、住宅施設（ローレルスク エア・アークメゾン）が建設され、第3セクタ方式で運営されている。</p> <p>従前は木造家屋が密集し、古い商店が散在し、商業の地盤沈下で街に活力が見られなかった。 また、地震などの災害が発生した場合は、甚大な被害が予想される地域であった。</p> <p>そこで、生活拠点と地域交流拠点の形成、安全で快適な駅前広場の整備、災害に強い 街づくり、街のシンボルとなる道づくり、個性豊かな街づくり、交流の舞台づくりを、 事業の目的として再開発事業がなされた。</p>
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>この再開発事業の特徴は、長岡京駅西口地区市街地再開発組合は、第3セクター方式で、運 営され、現在2年目で、黒字運営となっている。その秘訣は、給与の高い公務員のOB は、雇用しないで全て民間の人間で、民間の経営手法を駆使している点である。今後の 岡崎市の事業運営、施設運営は、長岡京市の例に習って、民間活力を活用し効率的な市 政運営をおこなうべきである。</p>